

國學院大學學術情報リポジトリ

『国際研究フォーラム「ミュージアムでみせる宗教文化」 Displaying Religious Cultures: A Museum Perspective』の刊行

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001559

『国際研究フォーラム「ミュージアムでみせる宗教文化」 Displaying Religious Cultures: A Museum Perspective』の刊行

本書は、2022年12月11日（土）に國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所の主催で開催された国際研究フォーラム「ミュージアムでみせる宗教文化」における各発表の内容を、報告書としてまとめたものである。

開催概要は既に本誌第16号のトピック1（5～7頁）にて紹介されているため、ここでは報告書の構成と内容に焦点を絞って示す。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/ijcc/ijcc-publications/forum-cjrc2022>

第Ⅰ部 大学ミュージアムの中の宗教文化 〔報告〕 7～13頁

「来て、見て、体感する神道と日本の宗教文化—國學院大學博物館の取り組みを通して—」深澤太郎、本学准教授

〔報告〕 15～24頁

「展示するモノと展示するコト—仏教文化の視点から—」熊谷貴史、佛教大学宗教文化ミュージアム、学芸員

〔報告〕 25～35頁

「キリスト教展示の現状と課題—諸教会の文化をいかに展示するか?—」下園知弥



報告書表紙



第Ⅱ部 多様性の中の日本の宗教文化 〔報告〕 37～47頁

「強制収容所内の信仰と宗教—アメリカの日系人博物館を通して考える日系人の多様な宗教経験—」エミリ・アンダーソン Emily Anderson、全米日系人博物館、学芸員

〔報告〕 49～60頁

「アイヌ文化展示が照らす日本・東アジアの宗教」北原モコトウナシ、北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授

※執筆者の肩書きは 本書刊行当時のもの

本書の編集は、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所のメンバーが行った。

第Ⅰ部は、神道・仏教・キリスト教の教育機関としての側面を有す、國學院大學、佛教大学、西南学院大学の各博物館の担当者による報告である。特定の宗教伝統と当事者的に関わる各々の立場から、宗教文化を展示するにあたっての実践例が報告された。

第Ⅱ部は、全米日系人博物館と先住民研究センターの担当者が、アメリカにおける日系人の宗教文化やアイヌの宗教文化といった、多様性の中における日本の宗教文化に関する展示の実践例を報告した。

本書の刊行により、宗教という特有の文化を展示するにあたっての各展示担当者による創意工夫や課題といった、実践の現場からの問題意識が広く共有されることが期待される。

(川嶋麗華)